

2010 年度 アオイ電子カップ

第 8 回 香川県オープンゴルフ選手権競技

開 催 日 : 平成 22 年 11 月 16 日・17 日

主催 : 香川県ゴルフ協会

開催コース : 高松グランドカントリークラブ 鹿庭コース

競 技 の 条 件

1. ゴルフ規則

日本ゴルフ協会ゴルフ規則とこの競技のローカルルールを適用する。

2. 競技委員会の裁定

競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。

3. 使用球の規格

『公認球リストの条件・ゴルフ規則付 (c)1b』を適用する。

4. 使用クラブの規格

『適合ドライバーヘッドリストの条件・ゴルフ規則付 (c)1a』を適用する。

5. スタート時間

『ゴルフ規則付 (c)2』を適用する。

6. 競技終了時点

本選手権競技は、競技委員長の成績発表がなされた時点をもって終了したものとみなす。

7. ホールとホールの間での練習禁止

『ゴルフ規則付 (c)6b』を適用する。

8. プレーの中断と再開

(1) プレーの中断(落雷などの危険を伴わない気象状況)については、ゴルフ規則 6-8b、c、d に従って処置すること。

(2) 険悪な気象状況にあるため、委員会の決定によりプレーが中断となった場合、同じ組の競技者全員がホールとホールの間にいたときは、各競技者は委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。1 ホールのプレーの途中であったときは、各競技者はすぐにプレーを中断しなければならず、そのあと、委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。競技者がすぐにプレーを中断しなかったときは、ゴルフ規則 33-7 に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、その競技者は**競技失格**とする。

この条件の違反の罰は競技失格(ゴルフ規則 6-8b 注)

(3) プレーの中断と再開の合図について

通常のプレー中断: 短いサイレンを繰り返して通報する。及び競技委員を通じて競技者に連絡する。

険悪な気象状況による即時中断: 1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。及び競技委員を通じて競技者に連絡する。

プレーの再開: 1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。及び競技委員を通じて競技者に連絡する。

9. 移動について ラウンド中の共用ゴルフカートの使用はこれを認める。

カートはキャディ及び共用するプレーヤーが運転することができる。カートを使用する場合は、カートはプレーヤーの携帯品の一部とする。カートを共用する場合は、共用のカートとそれに乗っている人や物は、球が関連している時はすべてその球の持ち主の携帯品とみなす。但し、そのカートを共用しているプレーヤーの一人がカートを運転していたときは、そのカートとそれに乗っている人や物はすべてそのプレーヤーの携帯品とみなす。

10. キャディ

帯同キャディは、これを認める。

11. 36 ホールを終わり各クラスの第 1 位がタイの場合は即日競技委員の指定するホールに於いてサドンデス方式のプレーオフにより第 1 位を決定する。2 位以下はプロ・研修生はタイ位とし、アマチュアはマッチングカード方式で順位を決定する。

裏面に続く

競技規定プレーの条件の追加

本競技は、“18ホール終了”をもって成立とし、2日間で36ホールを終了できなかった場合は、競技を短縮する。

ローカルルール

- 1．アウトオブバウンズの境界は白杭をもって標示する。
- 2．修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を標示する。
- 3．ラテラルウォーターハザードは赤線をもってその限界を標示する。
- 4．排水溝は動かせない障害物とする。
- 5．電磁誘導カート用の2本(または4本)の人工の表面を持つ軌道は、全幅をもってカート道路とみなす。
- 6．人工の表面を持つ道路に接した排水溝は、その道路の一部とみなす。
- 7．16番、17番の池の土留め用コンクリートは、コースと不可分の部分とする。
- 8．グリーンに近接する動かせない障害物について、『ゴルフ規則付 (B)6』を適用する。

注 意 事 項

- 1．競技の条件やローカルルールに追加、変更のあるときは、ハウス内掲示板とスターターズテント内にて告示する。
- 2．グリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
- 3．コース内での携帯電話は委員会の許可なく使用することを禁止とする。
- 4．練習は、それぞれの指定された練習場で行うこと。
- 5．スタート時刻8分前にはティインググラウンド周辺に待機すること。

コース内の予備グリーンの扱いについて

通常営業日（練習ラウンドも含む）は、プレー禁止の修理地としますが、大会当日2日間はスルーザグリーン扱いとしますので、そこに球があるか、又はスタンスがかかる場合にでも、あるがままの状態プレーしなければなりません。

競技委員長 大塚澄男